

「家庭学習」指導・支援のための参考書

全国学力・学習状況調査から、家庭学習に関する質問事項に肯定的な回答をしている子供の割合が高い学校は、各教科の平均正答率が高いという傾向が見られます。また、家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図り、家庭学習の方法について具体例を挙げながら指導することは、高い教育効果を生むことも明らかになっています。

本書は、家庭学習の意味と意義、方法について問い直し、一つの考え方をまとめたものです。本書を参考に、自校や中学校区におけるこれまでの家庭学習の指導・支援を振り返り、今後の教育活動について考え、着実に実践されることを期待します。

(令和5年度～ 南魚沼市学習指導センター)

1 「家庭学習」とは何か

家庭学習とは、家庭で課題に取り組んで学習することです。塾での学習も広い意味で家庭学習に含まれますが、ここでは塾以外の取組について考えることとします。

課題は、課す人が教師か子供自身かによって、「宿題」と「自学（自主学習）」に分けられます。それぞれに、主な目的を「習得」とする場合と、「活用」とする場合があります。また、それぞれに、期間が「翌日や次時まで」のように短い場合と、「次学期始めまで」のように長い場合があります。

2 「家庭学習」の意義は何か

家庭学習の意義は、「教科等の知識・技能等の定着を図り、その後の学習の基礎となること」「主体的に学習に取り組む態度を含めた学びに向かう力を身に付け、将来社会人として自立するための基礎となること」です。

3 「家庭学習」の在り方として大切なことは何か

(1) やれば得することを実感すること

家庭学習の意義のとおり、家庭学習は子供自身のためになるものであり、子供が自身のために行うことです。したがって、最も大切なことは、家庭学習に取り組んだら“分かるようになった”“できるようになった”“授業に取り組みやすくなった”“テストで実を結んだ”と成果が子供自身に返り、自己効力感につながれることです。

(2) 継続的な取組を習慣化すること

家庭学習の意義や成果の実感は、一時的な取組で得ることは難しいです。各教科は内容の特質に応じて系統立てて組織されているからなおさらです。“継続は力なり”と言われるように、継続的な家庭学習が個々に習慣付けられることが大切です。

(3) 授業と連動して動機付けること

家庭学習の意義や成果は、家庭学習を継続しないと知り得ません。一方、その意義の理解や成果への期待がある程度なければ、自らそれに取り組もうとしないでしょう。そのため、授業では、子供が分かる喜びやできる喜びを感じ、その知識・技能等を使ってもっと取り組みたいと思えるようにすること、子供がまだ至らぬところがあると課題を前向きに捉え、おさらいする必要があると思えるようにすることが大切です。

(4) 個別最適な学びを目指すこと

個別最適な学びは、個に応じた指導を通して学習の自立化・個性化を図ることです。授業はもちろんですが、家庭学習においてもそれを目指すことが大切です。

以上のことを大切にすると、学ぶ意欲を高め自学につながる授業づくりを考えるようになるでしょう。また、宿題は必ずしも一律に課す課題とせず、例えば共通基本課題と選択発展課題を組み合わせたり、レベル別選択課題を示したりするなどの工夫が考えられるでしょう。以下では、主に知識・技能を習得するために行う復習型の宿題を中心にその取り組む内容と取り組み方について例示します。

4 いかに「家庭学習」を行うか

(1) 取り組む時間帯と時間の目安

① 家に帰ってから早めの時間帯を定時に

一度覚えたことを復習するのにかかる時間は、復習するタイミングが早ければ早いほど短くなります。取り組む時間帯を決めて計画することは、習慣化に有効です。

② 1日平均「学年×10分間」以上を目安に ※中学校の学年は7～9年

復習も予習も一つの教科の課題に取り組むのに10分間は必要でしょう。学習時間確保の上で、テレビやゲーム等にあてる時間も計画に入れ制限することが必要です。

(2) 取り組む内容と取り組み方の例

家庭学習では、期日を考慮し「宿題」を優先して行います。宿題がなかったり、宿題が学年×10分間以内に終わったりした場合は、「自学」に取り組みます。自学は、自分が不足していると思う内容を復習したり、理解したことを使って他の複雑な問題に挑戦したり、次の授業の準備として教科書を読みなどの予習をしたりすることを自ら行うものです。

取り組む内容は、教科書や副教材、デジタルドリル等、普段使いの問題や資料を基にするのが現実的です。宿題は、一日に課す教科の数、学年に応じて課題の内容と量を調整し、掲示板等で可視化することが大切です。子供の意欲の持続と知識・技能等の定着を促すための工夫として、個々の課題への取組を、教師が見取り賞賛したり励ましたり教えたりすることと、子供同士で確認し教え合うことを組み合わせます。

① 国語

国語は「言葉」の学習であることを理解し、語彙を豊かにすることを目指す。

漢字・ローマ字練習：ドリルやタブレットを活用し、練習や問題に取り組む。

意味調べ：自分が知らない語句の意味を調べ、ノートにまとめる。

類義語や対義語も調べる。

視写：句読点や「 」の使い方、文章の構成等を意識して丁寧に書き写す。

音読：「正確に」「はっきりと」「気持ちを込めて」等を意識して音読する。

読書：色々な種類の本を選んで読む。

文章問題：初読の文章や設問を正確に理解して解答する経験を積む。

その他：新聞を読んで自分の考えをノートに書く、日記を書く等。

文部科学省のHPで紹介されている「小学校国語における学習指導コンテンツ」を活用することも考えられる。

② 算数・数学

計算練習：答えが出るまでの途中計算を書き残し、正しくできるまで練習する。

問題作り：式に合った文章問題や、定義に合う具体例を考えて作る。

文章問題：図や表、グラフ、式、言葉を使って求め方を説明して、答えを示す。

証明問題：図に条件や補助線を加えたり結論から考えたりして、証明を記述する。

授業中に**類題**で考え方を確認すると、宿題に取り組みやすくなる。宿題の答え合
せは自己点検以外に、次時に子供同士で行い教師は必要な点を教示することも考え
られる。

③ 理科

<小学校>

- ・教科書に載っている重要語句（ゴシック体）について覚えたり、意味を理解し、用語として使えるようノートにまとめたりする。

- ・教科書の「えんぴつマーク」「わかったこと」等をノートにまとめたり、「もっとしりたい」「やってみよう」「二次元コード」等を調べたり、体験したりして自学ノートに記録する。（中学校で学習する内容が多く含まれ、予習となる）。

<中学校>

- ・学力テストで弱いとされた「溶解度」（１年）「質量％濃度」（２年）「オームの法則」「電力と電流の大きさ」「発熱量」（３年）の計算練習を易から難へ繰り返す。

- ・教科書に載っている重要語句を覚えたり、図・解説等をノートにまとめたりする。

④ 社会

教科書の読み込み：不明な言葉を調べる。上下左右の資料を参考にした本文の読み取りをする。資料から考えられることをノートに書く。

歴史：歴史的な事件をまとめる。まとめる視点は、いつ、だれが、どこで、なぜ（原因）、どうした、その結果（影響）。

地理：地図上の位置確認、どんな産業、どんな地形や気候、現在の課題などその地域の大まかな特徴を考える。

その他：重要語句を整理したり、ニュースや社会情勢にふれたりする。

⑤ 外国語・英語

単語・重要表現練習

例：教師は授業の終末、教科書で練習する単語や表現を指定する。子供は教科書にチェックする（単語なら多くて１０個、文なら多くて５文、口頭で課すことで教師の負担を減らす）。

子供は家で「覚えるまで」ノートに練習する（あえて回数は指定しない）。

次の授業の冒頭に口頭で確認する。

T：How do you spell “example” in English? Please write it in the air.（そら書き）

Please check the spelling with your partner.（ペアでスペリング確認）

How do you spell?（インタラクティブしながら日本語の意味も含めて確認、指名して答えさせたり、全体で自由にスペリングを発言させたりしても可）

Repeat after me “example.”（３回程度、必ず音読する）

※課題に課した単語や文を全て確認するのではなく、いくつか選んでもよい。